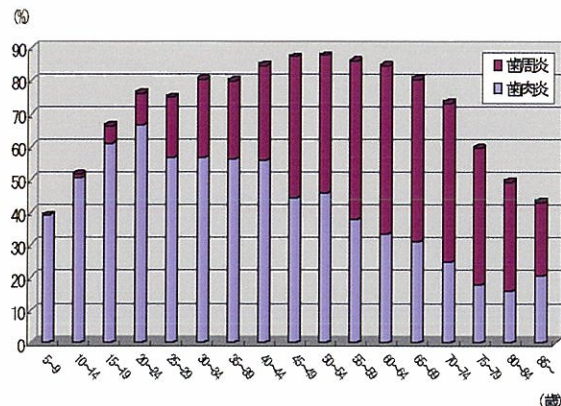


歯周病のある人の割合 (年代別)



平成17年歯科疾患実態調査(厚生労働省)

歯周病は歯肉炎と歯周炎(いわゆる歯槽膿漏)に分けられ、そのピークは50歳から54歳の頃です。しかし、20歳から24歳の若者でも66%以上が、歯周病のかかりはじめである歯肉炎になっています。年齢と共にしだいに歯周病は増加していく傾向にあります。70歳代以上では歯周病が減ったように見えますが、これは対象となる歯を失っていくからです。

歯周病は、歳をとるごとに自然に発生するものではありません。その原因となるのは細菌ですから、毎日のお手入れでお口の中を清潔に保つことが大切となります。

歯周病のセルフチェック

- 口臭がある
- 朝起きた時口の中が粘つく
- 水を飲むと歯がしみる
- 歯肉が赤く腫れている
- 歯肉がむずがゆい
- 歯肉に痛みがある
- 歯が長くなったような気がする
- 歯がぐらつき、隙間が広がった
- 食べ物を噛むと痛い
- 歯が揺れ食べ物を噛み切れない
- 歯肉から血が出やすい
- 歯肉を押すと膿が出る

以上の項目に心当たりがあれば
要注意！

かかりつけの歯科医師に
相談しましょう。



Amenity of Life

歯周病の話

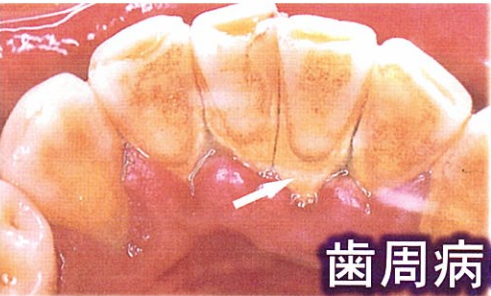
8020を目指している現在
むし歯だけが
歯の病気ではありません
それよりもはるかに恐ろしいのが

“ 歯 周 病 ”

歯が抜けるだけにとどまらず
その猛威は
全身をも侵すことになることを
ご存知でしょうか？



(社) 奈良県歯科医師会
産業歯科委員会
Tel 0742 (33) 0861
HP <http://www.nashikai.or.jp>



歯周病の原因は 歯石とプラーク！



プラークは細菌を大量に含んでいる軟らかいかたまりです。
プラークは歯ブラシで容易に取ることが出来ます。



時間が経つとプラークが石灰化して硬い歯石に変化してきます。
硬くなった歯石は歯ブラシで容易に取ることが出来なくなります。



歯石の表面はザラザラしていて歯肉を刺激し、さらにプラークがたまり易くなります。
このプラーク中の大量の細菌が出す毒素によって歯肉や歯槽骨が侵され、ますます歯周病が悪化していきます。



よく歯磨きをしていても歯石が付いてくることが多いので、定期的に歯科医院で取ってもらうことが必要です。

歯周病と診断されたら・・・



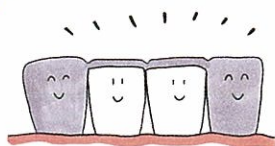
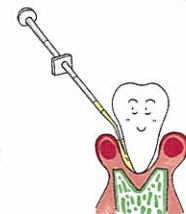
まずプラークを確実に取れるように、歯科医院で専門的なブラッシング指導を受けます。
上手に磨けるようになると、プラークがなくなり歯肉の腫れがひいていきます。



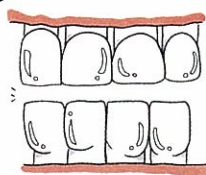
歯石がはっきりと見えるようになるので、歯科医院で歯石を除去します。時には冷たいものがしみ易くなりますが心配はいりません。



腫れも治まり歯肉が引き締まってきます。
歯肉が減ったようにも感じられます。
治りきらない時は歯周外科手術を行なうこともあります。
また、手術が出来ない場合は薬を補助的に使います。



手術後ぐらぐらする歯は固定することもあります。
減ってしまった歯肉は元に戻りませんが、以前よりしっかり物がかめるようになります。



定期健診でお口のメンテナンスを受けます。
1ヶ月～半年に一回ぐらいはかかりつけの歯科医院に行きましょう。

